

熊本・大分地震災害派遣

湯布院

第58号

発行・湯布院駐屯地後援会
印刷所・大野印刷株式会社



支援内容等について由布市長と
意見交換する特科隊長(由布市庄内町)
(由布院小学校避難所)



大分県知事へ状況説明する特科隊長
(由布院小学校避難所)



給水支援「生活水を確保する被災者」
(由布市庄内町)



給食支援「おしぎりとみそ汁の配布」
(由布院小学校避難所)



震災当初避難者の指定場所に避難する
(由布院町民会館公民館)



小学校授業再開のための
机の位置移動(由布院小学校)
(後日名簿を渡す)



避難者へに使用するため
自衛隊のトラックを改造(由布院小学校)
(後日名簿を渡す)



災害時特科隊長名簿による物資の
積み込み(福岡市立大)

『災害派遣と今年度の隊務運営』

一 等 佐 佐 三 宅 優

西部方面特科隊長兼湯布院駐屯地司令
皆さんこんにちは。まずは今回の震災においてお亡くなりなれた方々のご冥福を心からお祈り致しますとともに被災された方々の一日も早い復旧・復興を心から願っております。

「ゴースト」と地面から音が聞こえるような激しい縦揺れから我々の活動も始まりました。本棚や食器棚から物が投げ出される中、携帯電話を探し出し、その照明でなんとか迷彩服に着替え、部隊を目指しました。走りながら町内を確認していると至る所で皆さんが屋外に避難しており、パチンコ店や電気屋さんのガラスが割れている状況も確認しておりました。

駐屯地に到着しますと、こちらも停電しており、非常灯の中で発電機を準備し指揮所の態勢を整え、まずは隊区内の情報収集に着手しました。この時に、佐伯・竹田豊後大野は直ぐに連絡が取れたもの由布市とは繋がらず、こちらの被害が極めて大きいことに気が付きました。

ほぼ同時期に、地理に詳しい幕僚と広報室長による湯布院町の偵察を実施させました。ここで、被害があるものの倒壊家屋等は確認されず、人命救助の可能性が低いことから当初から給食、給水支援の重要性を認識し、当日の朝から温食が給付できるよう指示を出しました。この間、岩男病院、日野病院から停電・断水のため入院患者の生命が危険に晒される情報があり、早急に電源車と給水車を病院に派遣しました。このような中、朝四時頃には避難者が一番多かった由布院小学校に炊事車が到着し、現地での炊き出しにより当日の朝から避難している方々に温かいお粥や味噌汁を提供できました。その後は断水に対応するため町内各所や老人ホーム、給食センターへの給水支援や小学校再開のための片付け・清掃等も支援しました。駐屯地もかねて被災しましたが、緊急時のバックアップ機構が上手に機能し、いち早く水源や電源の確保ができたため、皆様の期待に応えることができたと思っております。

今回の震災対応を通じて、やはり自治体である由布市との連携の重要性を痛切に感じました。市長とはあらゆる行事等で一緒にいますが、この日頃の連携が緊急時に短時間で必要な調整を的確に行えた最大の要因であると分析しています。これが必要ならば、迅速な災害派遣の要請が来なかったでしょうし、震災直後の十六日から温食の給付は難しかったと感じております。

また岩男病院や日野病院に電源車等による支援が実施されましたが、これも震災後間もない段階で「非常用電源の燃料が限られていて」という貴重な情報を頂いたからであります。岩男病院長が平素、湯布院駐屯地の担当医として毎日のように診療頂いているからこそであり、改めて當日頃からの連携の重要性を認識した次第です。

平成二十八年度は開始早々の震災で一部予定の変更を強いられましたが、これから予定している練成訓練や体制改革に関わる事業を推進していく予定であります。また、大きな特長として五年に一度実施される日米共同指揮所演習が十二月に計画されています。例年実施している訓練等を見ても前倒しで実施します。また二年に一度の特科隊検閲も計画されているため、これから七月までは部隊訓練を主体に隊務を運営していきます。

その後「鎮西演習」や「日米共同指揮所演習」を実施し、年が明けてから体制改革に関わる特科教育等を重点的に推進する予定です。行事の関係では、例年十月、十一月に実施していた駐屯地記念日行事を、演習の閑休から九月四日に実施します。まだまだ暑い時期であると思いますが、皆様のこ来隊を心からお待ちしております。

それでは、今年度も駐屯地全員で国民の皆様への期待に応えられるよう全力で取り組みますので、引き続きのご支援ご協力をよろしくお願い致します。

熊本・大分地震災害派遣

熊本地震災害派遣に 参加して

西部方面特科隊本部第四科
二尉 井 隆治

今回の熊本地震において、四月十六日の湯布院を震源とした地震により私は、四月十七日から湯布院町現地災害対策本部へ連絡幹部として派遣されました。

派遣された当初の現地災害対策本部は、地域振興課の方々、消防署及び消防団の方々が災害状況の確認及び避難者の対応に終始している状態のため話しかけるのも気が引けるような状況でした。

そのような中、私が連絡幹部として実施した調整等行った事項は、一つ目は給食(配食数、場所)・給水(給水量、給水場所)及びその他のニーズ塞



由布市のニーズを特科隊指揮所に伝えることも現地の確認 (写真左/井尉)

さ対策での毛布等の差出等について状況を確認し、特科隊指揮所に自治体からのニーズを伝え実行の可能性があるかどうかを現地災害対策本部に伝える業務二つ目は町内各避難所に避難している人数を特科隊指揮所に朝・夕伝達する業務でした。私が今回派遣間特に感じたのは、現地災害対策本部の方が、自衛隊が災害派遣される際の行動や能力(給水・給食・物資輸送等)についてあまり認識がなかったという事です。特に給食については一台の炊事車で二百から二百五十人の炊飯能力があるというには驚いていました。

これらを踏まえて、我々湯布院駐屯地に勤務する隊員は平素より地元自治体及び市民の方々とより一層連携を強化していく必要があると思

熊本地震災害派遣に 参加して

第一三二特科大隊本部管理中隊
一士 本田 有矢

平成二十八年の四月十六日に熊本県大分県を中心とする大規模な震災があった事はまだ記憶に新しいことかと思えます。この震災に遭われてしまった方々を助けたら、そう強く感じている時、小学校に非難されていた方々の食事を作り配膳せよと被災された方々の給食支援を行う業務を私は命ぜられました。私は直ちに準備し小学校へ向かい、すぐさま炊き出しの準備に取りかかりました。私にとって災害派遣活動としての炊き出しを行うことは初めてであり、要領がわからず思うようにいかないことも多くあり、また余震が心配される中で給食支援となりました。

熊本地震災害派遣に 参加して

第三〇二観測中隊
三曹 大石 正則

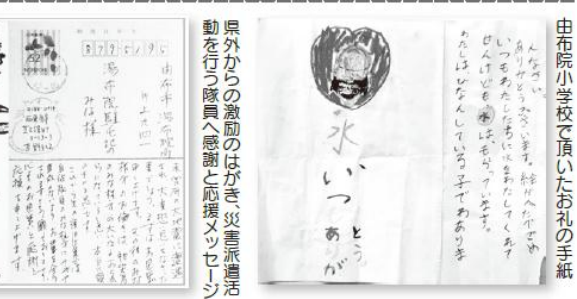
四月十四日夜九時二十分の熊本地震発生時、私は全日本統剣道大会出場の為、朝霞駐屯地において勤務していましたが、十五日午前中に連盟から大会の中止及び部隊から原隊復帰命令があり、速やかに湯布院駐屯地に向け出発しました。湯布院駐屯地には翌十六日到着し直ぐに私の与えられた任務は給食センターへの給水支援であり、自分の出来る事を一生懸命にやろうと思いを参加しました。給水支援は、当初雨が降りしきる中でありましたが学校給食に使用されることから安全な水を提供するため給水タンクに異物が入らぬようにしなければならず、水トラローから給食セ



野炊炊具弓改を使用し被災者の方々の給食作り (由布院小学校)

ンターへの給水、補水の為の移動水トラローへの補水、給食センターへの移動、そして給水等を行う活動は朝七時〜夜八時までの十二時間の連続状況で、かつ走行距離も約二百キロとなり、交通事故に合わないよう細心の注意を払いながら行う給水活動は、予想以上に私の体力と気力を奪うものでした。このような活動の中私は心の中の言葉を抱きながら給水活動を行っていました。

それは「笑顔」です。私たちの活動が子供たちの給食のために必要であり、そして給食を食べる子供達の笑顔に変わって、それを信じて頑張りました。私は、今回の災害派遣に参加できた事を、そして少しでも被災されている人々に貢献出来た事を誇りに思っています。今後、また災害が起きた時は、大好きな笑顔を守る為、私は全力で頑張ろうと思えます。



由布院小学校で頂いたお礼の手紙

熊本地震災害派遣に 参加して

第一二二特科大隊第二中隊
主長 高島 直斗

私は、今回の熊本地震災害派遣において、第一次輸送支援隊員として主に健康駐屯地で活動していました。私は、現在入隊して五年目になります。



高遊原分屯地熊本に全国から集まる支援物資を種類ごとに仕分ける災害西部方面特科隊輸送中隊



私が入隊する一年前に、東日本大震災が起き、ニュース、新聞等で多くの自衛官が国民のために活動する姿を見て、私も国民の力になりたいと思いを決意しました。今初めて災害派遣に参加し、主に物資の輸送支援を行いました。現地では天候が悪く、予定通りに航空機が飛ばすことができません。大幅に物資の到着が遅れる事がありました。全国各地から届けられる物資を見て、改めて今回の地震の被害の大きさを実感しました。輸送支援だったので、被災者の方々と直接に関わる事はありませんでしたが、国民の負託に応えたい気持ちを感じ、一致団結して任務を遂行しました。自衛官として即応態勢の保持、物心両面の準備の重要さを学びました。

湯布院駐屯地業務隊

(熊本・大分地震災害派遣) 後方支援業務

熊本地震での給排水係の 応急対応について

湯布院駐屯地業務隊
管理科管轄班
管理科管轄班
管轄班長 田中 孝之

湯布院町は、井戸、沢水を水源とし、濾過等の処置をせずそのまま飲料に使用できる恵まれた自然豊かな地域であるが、熊本地震によりその殆どの水源が被害を受け、配水管の破断及び水源の濁水化により受水ができない状態になった。

駐屯地も同様に被害を受け一時断水となったが、2名の給排水係を中心とする管轄班員が不休で施設の復旧作業を行い、県内で唯一の浄水機能（膜処理）を有している駐屯地の機能回復を図った。

しかしながら濁水は、自動で精製できるレベル（通常水の濁度の100倍以上）を超えていたため、手動で精製を行うつつ、施設破損（配水管の漏水、浄化槽の機器異常）部分の修理を同時に行った。その迅速な対応により災害派遣部隊の給水支援を遅くなく実施できた。

この震災の経験を生かし、施設整備及び部隊支援に反映させたい。



地震の影響で配水管が破断し速やかな復旧作業を行う防衛技官(管理科管轄班)

平成二十八年 熊本地震から

湯布院駐屯地業務隊
補給科
補給科
一 衛藤 祐二

私は、駐屯地燃料係として勤務しています。

「二十四時間態勢の燃料給油助かります。ありがたうございます。」と災害派遣中の隊員から感謝の言葉を頂く度、複雑な思いになりました。遠くから被災地へと向かう隊員達を見て大変なのは私達ではなくあなた達です。思いつくだけの言葉をかけながらの給油支援でした。

この第三种非常勤務態勢間、延べ一五三〇両一〇四五三リットルを補給班員と給油支援をしました。燃料給油のような後方支援が心をひとつに各々の任務を達成することが非常に大切だと感じることできた地震対応でした。

これからも、今回の地震対応の教訓を胸に更に勤務に精励していく所存です。



災害派遣に使用される車庫へ二十四時間態勢での燃料補給(燃料スタント)

緊急登庁家族支援 センター開設

湯布院駐屯地業務隊
厚生科
厚生科
共済係長 岩下 順子

今回の熊本地震で業務隊厚生科は、厚生センターに緊急登庁支援センターを開設して隊員のお子様たちを預かり、私も勤務員の1員として従事しました。

兄弟姉妹で預けられている子供達の中で年上のお子様は自衛官のお子様らしく頼もしい存在であり、余震の続く中でも自分の兄妹だけでなく年下の子供達の面倒もみてくれました。

私は当初母親を探し泣き続ける一歳半の男の子に寄り添い、出来る限りのことをさせて頂きました。緊急登庁支援が続く中で、最初は泣きばかりだったお子様が私達の問いかけにも応えるようになり、笑顔で駆け寄ってくるようになった時は感激で涙が出そうでした。

そしてその姿に安心し任務に向かう母親達のために、緊急登庁支援任務の重要さを痛感しました。これからも、今回の地震対応の経験を生かし、勤務に励みたいとおもっています。



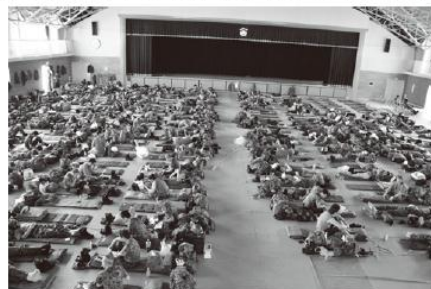
緊急登庁のための隊員の子供たちを一時的に預かる(駐屯地厚生センター)



全国から熊本県へ災害派遣に向かう部隊への燃料補給(業務隊補給科)



災害派遣活動中の隊員のための食糧を緊急調達し到着後倉庫へ搬入する隊員(業務隊補給科糧食班)



災害派遣活動中の北部方面隊の隊員が体力回復のため休憩をとる(湯布院駐屯地体育館)

第三六八施設中隊 災害派遣活動

第三六八施設中隊は、四月十六日から五月四日までの間、熊本地震に伴う災害派遣において熊本県南阿蘇村に派遣されました。主要任務は、地震の影響で土砂崩れが発生し、道路が寸断されたため道路の啓開作業を実施しました。



南阿蘇村床瀬川北側において道路啓開のため倒木の伐採作業をする隊員



南阿蘇村の国道三五号線、土砂崩れで道路が寸断されたため重機等を使用し道路啓開作業を実施する隊員



第三六八施設中隊

群総合戦技競技会

二月二十三日(火)から二十五日(木)までの間、飯塚駐屯地において群総合戦技競技会が実施され、中隊は持統走・漕舟・射撃の部で優勝、銃剣道の部で二位の好成績を取め、本競技会の総合優勝中隊となりました。



整備・検定等多忙な中で、各所掌で連携して時間を確保し、時には課業外も活用し練習を積み重ねました。中隊長を核心とし、中隊一丸となった結果が本競技会に表れたと思います。



中隊訓練検閲

この他、中隊訓練検閲受閲、日出生台演習場定期整備、駐屯地グラウンド排水整備を通し、中隊の施設技術能力の維持向上に努めております。



昨年出国した南スーダン派遣施設隊九名も無事に帰国し、定期異動、定期整備、中隊訓練を経て、現在は六月の中隊訓練検閲受閲に向けて準備を進めております。現状に満足せず更なる団結の強化、そして一所懸命各種任務を完遂していきます。



第一〇一特科 直接支援隊

西部方面後方支援隊 持続走競技会参加

第一〇一特科直接支援隊は三月八日(火)目達原駐屯地で実施された西部方面後方支援隊持続走競技会に参加しました。本競技会は、体力・気力の向上を図るとともに、部隊の団結の強化及び士気の高揚を図る目的で実施され、西部方面後方支援隊の部隊十一部隊二十四チームが参加しました。



部隊長計画で実施された団体走においては示された期間内に所属人員のほぼ一〇〇パーセントのタイム計測を実施させ、部隊一丸の士気を高めさせました。駅伝走部門では特科直接支援隊からは中隊等ごと三チームが編成され早朝練成の成果を発揮し、優勝を目指しました。第一〇一特科直接支援隊は五十代の部において杉谷二尉が優勝しました。

中隊駅伝大会に参加して

第三〇四基地通信中隊 湯布院派遣隊

二番 幸 伸太郎

平成二十八年三月三日、中隊駅伝大会が福岡駐屯地で実施された。中隊隷下の各派遣隊や中隊内の各隊総勢十三個チームが出場した。一個チーム女性自衛官枠・陸士枠・陸曹枠・特別枠・隊長枠の五人で構成され、二月月上旬に抽選で選ばれた選手が約一ヶ月の練習を重ね各三区三回の総合タイムを競った。特別枠と派遣隊長以外の選手は抽選で選ばれたためどのチームが上位にくるかわからない展開であったが、湯布院チームはクジ運悪く湯布院派遣隊の中でも駆け足が得意ではないむしろ苦手(遅い)選手が選ばれた。派遣隊長は選手決定後、年度当初の目標「優勝」から十三個チーム中「半分以内を目標」で少しアハウトな目標に変更したが、各チームの予想タイムを集計・分析した結果湯布院は、十位予想だった。この分析から考えると、今年の湯布院チームとしては厳しい目標となった。



しかし選手たちは自分を信じ、隊長が作成した練成メニューを信じ、チームとして練習を重ねた。選手をサポートするために恒常業務や夜勤等、派遣隊みんなが協力してくれました。そして本番当日、湯布院からは応援者四名、選手五名の計九名で中隊へ乗り込んだ。

十三個チームが集まると開会式が行われ、いよいよスタートが迫ってきた。他チームの選手がみんなアスリートに感じてしまったのは私だけだったので、どうか緊張のせいで息の仕方を忘れてしまおうと思った。いよいよスタート。一区の陸士は一月前の記録を四十二秒も縮めた。二区の女性自衛官は記録を五十秒縮め、三区の陸曹も四十秒短縮、四区特別枠の選手は二分二十秒も短縮、アンカー五区の隊長は二十五秒短縮させた。特にアンカーのラストスパートのデットヒールは盛り上がった。



結果は六位。目標の半分以内を無事に達成できた。優勝する事は凄いです。私は今回の結果に満足している。これは、選手一人一人が隊長を心から信じ、黙々と練習メニューをこなしてきた努力と、これまでサポートしてくれた派遣隊みんなの気持ち、そして当日福岡まで応援に来てくれた同僚たちのすべての力を合わせて成し遂げた価値のある六位だから。派遣隊がより一層強固に団結し「感動」という衝撃が走った瞬間だった。まさしく隊長の要望事項「相互信頼」を肌で感じた瞬間でもあった。私は、二十七年の駅伝大会で走れたことを幸せに感じます。来年度も同大会が企画されると思いますが、派遣隊の誰か抽選されても湯布院派遣隊は団結し感動できる部隊だと信じています。わたしはもう選ばれたくないですね。

自衛官候補生入隊式

四月九日(土) 西部方面特科隊(隊長三宅一佐)は、部内外から多数の来賓の方々がご臨席のもと「平成二十八年年度自衛官候補生入隊式」を湯布院駐屯地において盛大に挙行了しました。



代表「原口候補生」の語和に続き自衛官候補生全員で大きく力強い声で宣誓を読み上げる。

三宅隊長は式の中で、お互い切磋琢磨し目標を持ち頑張ってもらいたい。そして幕末に活躍した長州藩士吉田松陰の言葉に「夢なき者に成果なし」との声援を述べました。参列した家族の方々は僅かな期間で身に付いた精悍な態度や制服姿に感動した面持ちで見入っていました。

入隊式終了後、会場を隊員食堂に移し祝賀会食が行われ、家族との再会で緊張が解けたのか笑顔で会話が弾み和やかな雰囲気の入隊式を終りました。

今後自衛官候補生は、約三ヶ月の間教育の中で自衛官として必要な基礎を学びます。



隊員食堂での祝賀会食において家族との再会で終始笑顔で会話が弾む自衛官候補生。

駐屯地観桜会

湯布院駐屯地は、四月三日(土) 駐屯地後援会共催のもと観桜会及び各部隊計画による春季家族コミュニティ支援行事を開催しました。



駐屯地後援会共催の「観桜会」、各種協力団体の方々を交えての会食(隊員食堂)



各部隊計画による春季家族コミュニティ支援行事の様子



モニター委嘱式

四月九日(土) 湯布院駐屯地において平成二十八年年度「防衛・駐屯地モニター委嘱式」を実施し、各モニターに対して、駐屯地司令から委嘱状を贈呈しました。

防衛モニターは一年間、駐屯地モニターは一年間、よろしくお願いします。

また二十七年年度、防衛・駐屯地モニターに協力頂いた方々有難うございました。

- 二十八年年度防衛モニター
 - 後藤 聡子 様 (由布市)
- 二十八年年度駐屯地モニター
 - 石川 徳子 様 (由布市)
 - 小畑 彰 様 (由布市)
 - 下田 孝 様 (由布市)
 - 永松 何奈子 様 (宇佐市)
 - 山崎 由夏 様 (大分市)
 - 山月 憲昭 様 (由布市)

駐屯地プール開き

湯布院駐屯地は、四月三日(日) プール開きを実施しました。

近年では、日本の防衛をとりまく環境の変化に伴い島嶼防衛のための水陸両用作戦において、高度な水泳能力が求められています。今年度から新たに、立ち泳ぎ訓練施設「水蓮」を新設し、隊員が水泳訓練を実施できる環境を整えました。



駐屯地プールに隣接し、立ち泳ぎ訓練施設「水蓮」を新設、効率的な訓練環境の整備を充実させました。

春風コンサート

第十一回春風コンサートを三月十九日(土) 由布市はさま未来館で実施しました。第一部「勇壮さ」第二部「はつらつさ」第三部「親しみやすさ」をテーマに演奏を実施しました。

第二部では由布高等学校及び扶間中学校の生徒さんの演奏や扶間幼稚園、谷幼稚園の園児たちの踊りなど大盛況に終わることができました。



演奏会のフイナレに出演者全員や会場のお客さんとともに「WA」になって踊ることができました。



駐屯地広報において二十八年度防衛駐屯地モニター委嘱状を贈呈しました。

平成二十七年年度
後期定期異動

着任特科隊副隊長



一等陸佐 石丸 信二

離任特科隊副隊長



一等陸佐 山口 耕司

転出先
〔富士学校特科部〕(富士)

転入部隊長紹介

- 一、二特科大隊長 (陸上幕僚監部) (市ヶ谷)
- 二曹 陸佐 香川 賢士
- 駐屯地業務隊長 (市ヶ谷)
- 二曹 陸佐 今井 健太

転出部隊長紹介

- 一、二特科大隊長 (幹部候補生学校) (前川原)
- 二曹 陸佐 山本英一郎
- 駐屯地業務隊長 (小倉)
- 二曹 陸佐 樋口 裕

転入者の紹介

- 特科隊本部 (第五地対艦ミサイル連隊) (三佐 緒方 正剛)
- 〔富士学校〕(富士) (一尉 久藤 真司)
- 本部中隊 (中央即応集団司令部付隊) (二曹 池松 大介)

第一一二特科大隊

- 〔第十二特科隊〕(宇都宮) 一尉 川畑 篤史
- 〔第一空挺団〕(宮志野) 一曹 赤間 広行
- 〔別府駐屯地業務隊〕(別府) 二曹 庄島 将司
- 〔第五地対艦ミサイル連隊〕(徳島) 二曹 橋原 雄二
- 〔第一空挺団〕(宮志野) 二曹 高村 幸雄
- 〔第六特科連隊〕(郡山) 二曹 我妻 勲
- 〔特科教導隊〕(富士) 二曹 宮崎 裕季
- 〔第一空挺団〕(宮志野) 二曹 能登 秀一
- 〔第一空挺団〕(宮志野) 二曹 高塚 雅文
- 〔西部方面普通科連隊〕(相模) 二曹 江口 喜貴
- 〔第一空挺団〕(宮志野) 三曹 西村 伸彦
- 〔第一空挺団〕(宮志野) 三曹 河津 隆特

第一三二特科大隊

- 〔第八特科連隊〕(えびの) 一尉 友永 壽法
- 〔第五地対艦ミサイル連隊〕(徳島) 一尉 米崎 哲男
- 〔第五地対艦ミサイル連隊〕(徳島) 二尉 加祥 裕
- 〔幹部候補生学校〕(前川原) 曹長 中川原雄太
- 〔幹部候補生学校〕(前川原) 曹長 前川 貴史
- 〔幹部候補生学校〕(前川原) 曹長 小川 将
- 〔幹部候補生学校〕(前川原) 曹長 榮 理仁也
- 〔幹部候補生学校〕(前川原) 曹長 廣田重希奈
- 〔玖珠駐屯地業務隊〕(玖珠) 一曹 波邊 増夫
- 〔自衛隊熊本病院〕(熊本) 一曹 齋藤 博文
- 〔大分地方協力本部〕(大分) 一曹 梶原 忠治

第三〇二観測中隊

- 〔富士学校〕(富士) 二曹 田部 徹
- 第一〇一特科直接支援隊 (西部方面後方支援隊本部) (白根) 一尉 原 計吾

〔高等工科大学〕(武山)

- 一尉 田中 剛
- 〔武器学校〕(土浦) 三尉 高桑 康也
- 〔第一〇一特科直支援隊〕(熊本) 曹長 安部 一夫
- 〔幹部候補生学校〕(前川原) 曹長 松尾 良彦
- 〔第三〇二通信直支援中隊〕(徳島) 一曹 小野 浩二
- 〔補給統制本部〕(土佐) 一曹 渡邊 誠
- 〔第一〇三高射直支援大隊〕(徳島) 三曹 田中あおい

駐屯地業務隊

- 〔別府病院〕(南別府) 一尉 岩村 彰子
- 〔第四戦車大隊〕(玖珠) 一尉 熊谷 春光
- 〔第四〇四会計隊〕(相模) 二尉 伊藤 一雄
- 〔第四〇四会計隊〕(玖珠) 曹長 春藤 嘉之
- 〔第四〇四会計隊〕(別府) 曹長 首藤 洋介
- 〔第三〇四基地通信中隊〕(徳島) 三曹 吉田 加奈

転出者の紹介

- 特科隊本部 (西部方面総監部) (徳島) 三佐 高木 勇策
- 〔第八特科連隊〕(北熊本) 一尉 河村 政博
- 本部中隊 (小平学校) (小平) 二曹 安東 男介
- 〔西部方面総監部付隊〕(徳島) 三曹 亀島 恵

第一一二特科大隊

- 〔西部方面総監部〕(徳島) 一尉 野添 剛光
- 〔別府駐屯地業務隊〕(別府) 一曹 河野 孝紀
- 〔西部方面会計隊〕(徳島) 二曹 内村 健二
- 〔北熊本駐屯地業務隊〕(北熊本) 二曹 木村 康一

〔第十五旅団司令部付隊〕(那覇)

- 二曹 花岡 幸祐
- 〔自衛隊大分地方協力本部〕(大分) 二曹 渋谷 英樹
- 〔第一八二〇フタ一四〕(大分) 三曹 米倉 大介
- 〔富士学校特科部〕(富士) 三曹 小屋 俊祐
- 〔西部方面情報保全隊〕(島分) 三曹 後藤 哲美

第一三二特科大隊

- 〔第十五旅団司令部〕(前編) 一尉 飯野 利生
- 〔第十四特科隊〕(松山) 二尉 立田 真一
- 〔那覇駐屯地業務隊〕(前編) 曹長 三島 忠之
- 〔九州地区補給処〕(自衛隊) 二曹 江川 勝宣
- 〔西部方面隊付隊〕(徳島) 二曹 中渡 兼
- 〔第五地対艦ミサイル連隊〕(徳島) 三曹 木村 浩一
- 〔航空学校〕(羽野) 三曹 川津 祐哉
- 〔特科教導隊〕(三宅) 三曹 常田 晴康

第三〇二観測中隊

- 〔第五陸曹教育隊〕(相模) 曹長 奈良進 一朗
- 〔第二施設群〕(飯塚) 二曹 池田 親法
- 〔教育支援施設隊〕(宮ヶ原) 三曹 伊藤 和仁

第一〇一特科直接支援隊

- 〔第八後方支援連隊〕(北熊本) 一尉 首藤 龍仁
- 〔北後方支援連隊〕(北熊本) 一尉 輪迫 豊
- 〔北後方支援連隊〕(北熊本) 一尉 吉木 卓也
- 〔自衛隊大分地方協力本部〕(大分) 曹長 井上 憲司
- 〔西部方面後方支援隊本部付隊〕(徳島) 曹長 林 正樹
- 〔第一五後方支援隊〕(徳島) 二曹 清田 耕作

〔武器学校〕(土浦)

- 二曹 田中 悠一
- 〔北後方支援隊〕(北熊本) 三曹 松本 恭典
- 駐屯地業務隊 (南別府) 一尉 川島 美佳
- 〔大分弾薬支隊〕(大分) 曹長 日野 智宏

退官者紹介

- 〔第三六六会計隊〕(小倉) 一尉 緒方 文明
- 〔第四〇四会計隊〕(別府) 曹長 佐藤 昌弘
- 本部中隊 (退官日) 十月二十九日 三等陸尉 木崎 慎二
- 第一〇一特科直接支援隊 (退官日) 十月二十四日 陸曹長 梶原 和義
- 第一〇一特科直接支援隊 (退官日) 一月二日 一等陸曹 岩男 伸光
- 駐屯地業務隊 (退官日) 一月十八日 陸曹長 後藤 和夫
- 第一〇一特科直接支援隊 (退官日) 一月十六日 陸曹長 松村 重信
- 第三六八施設中隊 (退官日) 一月十六日 陸曹長 渡邊 賢
- 駐屯地業務隊 (退官日) 一月十九日 准陸尉 下平 常明
- 本部中隊 (退官日) 二月十一日 准陸尉 本川 浩二
- 本部中隊 (退官日) 三月二日 陸曹長 福岡 広幸
- 第一一二特科大隊 (退官日) 三月六日 陸曹長 伊吹 正
- 本部中隊 (退官日) 三月八日 准陸尉 福丸 嘉亮
- 第三六八施設中隊 (退官日) 三月十日 一等陸曹 佐古 博文
- 本部中隊 (退官日) 三月十三日 陸曹長 秋吉日出生
- 駐屯地業務隊 (退官日) 三月二十一日 行(一)五 丸山 幸男
- 行(一)四 藤田 幹男
- 第一一二特科大隊 (退官日) 四月三日 陸曹長 山下 誠

定期昇任者

★二等陸佐へ
特科隊本部
追田 雅昭

★一等陸尉へ
第一二二特科大隊
樋田 雄一
熊谷 雄一郎

★二等陸尉へ
特科隊本部
山本 貞彦
第三〇二観測中隊
高橋 浩志

★三等陸尉へ
第一二二特科大隊
三浦 紳弥
第一三二特科大隊
塩田 智弘

★陸准尉へ
本部中隊
山下 直宏

★陸曹長へ
第一三二特科大隊
野柴 隆史
第三〇二観測中隊
木村 淳一

第三六八施設中隊
宮田 健一郎
古川 正毅
奈良 進一郎

第一〇三施設直接支援隊
井上 克彦
駐屯地業務隊
日高 康二
茂里 寿幸

★二等陸曹へ
本部中隊
高田 隆弘
第一二二特科大隊
堤 大海

第一三二特科大隊
陣内 孝則
富田 正敏
第三〇二観測中隊
小野 拓徳

第一〇一特科直接支援隊
船越 友博
第三六八施設中隊
宇丸 徳一
宇野木 一寿

駐屯地業務隊
中川 修仁

★二等陸曹へ
本部中隊
甲斐田 修一
第一二二特科大隊
伊地知 祐樹

第一三二特科大隊
石橋 賢一
出口 恵貴
第三〇二観測中隊
工藤 貴広

第三六八施設中隊
中村 宏
第一〇一特科直接支援隊
安部 翔太

第三〇四基地通信中隊
幸 伸太郎
本部中隊
安藤 諒
古川 賢和

★三等陸曹へ
本部中隊
安藤 諒
古川 賢和
渡利 紀
江口 貴雄

第一二二特科大隊
橋原 健悟
第一二二特科大隊
佐藤 優
第一三二特科大隊
阿比留 優

第三〇二観測中隊
山野 翔太
第三六八施設中隊
宮井 龍之介

第一〇一特科直接支援隊
堤 未来
末光 一織
浦上 輝一

駐屯地業務隊
川島 美佳
第一〇四會計隊
一尉 緒方 文明

★四級賞詞(職務遂行)
特科隊本部
一尉 河村 政博
一尉 永野 博之

本部中隊
三尉 西原 幸宏
二曹 安東 勇介
二曹 高田 淳史

第一二二特科大隊
三尉 山東 一真
二尉 山口 明
第一三二特科大隊
一尉 明石 猛

二尉 立田 真一
二尉 津上 武士
曹長 加木 達美

曹長 南 忠久
曹長 三島 忠之
第三〇二観測中隊
三尉 常田 晴康

第三六八施設中隊
准尉 内田 孝一
一曹 加藤 英樹

二曹 佐々木 勝幸
甲斐 隆幸
駐屯地業務隊
行(一)三 高山 芳則

行(二)四 中村 真悟
曹長 日野 智宏
第一〇一特科直接支援隊
一尉 首藤 正樹

一尉 青木 卓也
二曹 清田 耕作
二曹 西田 眞二郎

★四級賞詞(業務改善)
第一〇一特科直接支援隊
曹長 井上 憲司

★四級賞詞(車両無事故)
第三六八施設中隊
一曹 宇野木 一寿
二曹 梶尾 裕太

三曹 菊田 正和
二曹 平田 幸博
本部中隊
曹長 柏木 正史

一曹 藤内 正史
一曹 下村 一史
二曹 茂田 尚武

三曹 亀島 千鶴
三曹 岩本 貴士
佐藤 和正

★五級賞詞(職務遂行)
本部中隊
曹長 藤内 正史
一曹 下村 一史

二曹 茂田 尚武
三曹 亀島 千鶴
三曹 岩本 貴士

佐藤 和正
駐屯地業務隊
三尉 小山 晃弘

准尉 麻生 敏正
一曹 杉本 大海
二曹 三浦 早太

三曹 木村 康一
三曹 田畑 倫弘
三曹 川原 祐作

三曹 西原 健二
第一三二特科大隊
一尉 横山 匠

二曹 久和 正幸
二曹 江川 勝宜
三曹 中濱 兼真

三曹 木村 浩一
土長 前田 健太郎
第三〇二観測中隊
二尉 阿南 雅満

第三六八施設中隊
二尉 宮田 政也
三曹 伊藤 和仁

三曹 前嶋 夕野
三曹 菊田 直美
三曹 横山 勇樹

三曹 宮脇 希望
一尉 首藤 仁
二曹 田中 悠一

三曹 諏訪 裕之
三曹 尾崎 裕之
三曹 松本 恭典

三曹 立石 貴久
土長 代口 流星
駐屯地業務隊
曹長 福山 圭介

一曹 吉田 祐広
二曹 佐々木 梨香
二曹 佐藤 泰吉

★五級賞詞(災害派遣)
第一〇一特科直接支援隊
三曹 平垣 賢悟

★五級賞詞(車両無事故)
第一三二特科大隊
二曹 吉永 哲宏

三曹 原田 拓哉
三曹 勝河 信一郎
第三六八施設中隊
三曹 古川 星弥

第一〇一特科直接支援隊
二曹 安部 翔太

★五級賞詞(職務遂行)
本部中隊
曹長 藤内 正史

一曹 下村 一史
二曹 茂田 尚武

三曹 亀島 千鶴
三曹 岩本 貴士

佐藤 和正
駐屯地業務隊
三尉 小山 晃弘

准尉 麻生 敏正
一曹 杉本 大海
二曹 三浦 早太

三曹 木村 康一
三曹 田畑 倫弘
三曹 川原 祐作

三曹 西原 健二
第一三二特科大隊
一尉 横山 匠

二曹 久和 正幸
二曹 江川 勝宜
三曹 中濱 兼真

三曹 木村 浩一
土長 前田 健太郎
第三〇二観測中隊
二尉 阿南 雅満

第三六八施設中隊
二尉 宮田 政也
三曹 伊藤 和仁

三曹 前嶋 夕野
三曹 菊田 直美
三曹 横山 勇樹

三曹 宮脇 希望
一尉 首藤 仁
二曹 田中 悠一

三曹 諏訪 裕之
三曹 尾崎 裕之
三曹 松本 恭典

三曹 立石 貴久
土長 代口 流星
駐屯地業務隊
曹長 福山 圭介

一曹 吉田 祐広
二曹 佐々木 梨香
二曹 佐藤 泰吉

慶弔

◆ご結婚おめでとう
本部中隊
三曹 渡邊 翔太
三曹 吉武 健次

三曹 江藤 忠士
土長 高富 直斗
土長 高富 愛未

三曹 山野 翔太
三曹 柳 翔太
三曹 徳村 晃子

三曹 玉ノ井 朋星
三曹 後藤 克成
本部中隊
二曹 高島 伸治

三曹 野添 剛光
三曹 福海 康平
三曹 太郎 良平

三曹 竹下 裕也
一尉 鈴木 宣彦
三曹 勝河 信一郎

三曹 松田 直樹
三曹 徳丸 敬祐
三曹 中濱 兼真

三曹 朝田 志郎
三曹 森 大樹
三曹 森 政哉

二曹 日名子 貴志
三曹 佐藤 充太
三曹 東田 竜亮

三曹 佐藤 泰広
三曹 堀 駿友
行(一) 平井 秀和

行(二) 矢野 友裕
本部中隊
曹長 矢野 和楨

二曹 熊瀬 川輝夫
二曹 生野 祥浩
曹長 榮 理也

二曹 徳頭 祖父
二曹 陣内 重行
二曹 吉田 恭兵

二曹 倉本 充也
三曹 中村 男樹
三曹 樋口 義人

三曹 久保 直也
三曹 山代 誠
第三〇二観測中隊

第三〇二観測中隊
第三〇二観測中隊
第三〇二観測中隊

第三〇二観測中隊
第三〇二観測中隊
第三〇二観測中隊

第三〇二観測中隊
第三〇二観測中隊
第三〇二観測中隊



県内一周駅伝大会を終えて

第一三特科大隊第三中隊

二番 石橋 賢一

大分県には県内一周大分市チーム伝大会という十六の各都市チームが三九区間を五日間で棒を繋いで競い合う駅伝大会があります。私はアンカーを任ざられて別府、大分間の十二、一キロを走りました。沿道にはたくさん応援する人達がいて、その中に由布市チームの仲間、職場の先輩、後輩、そして一番近くで支えてくれた家族が応援に駆けつけてくれました。三月の定期駅伝により最後の大会ということもあり特別な思いで走りまわりました。

振り返れば、県内一周駅伝との出会いは持続走訓練隊の参加でした。そして持続走訓練隊で六年間続けることができた原動力は県内一周駅伝だと思います。

今まで支えてくれた人達に本当に感謝しています。これからも県内一周駅伝を応援よろしくお願います。



私の趣味

第一三特科大隊本部管理中隊

三番 馬場 厚支

私の趣味は、釣りで、つきかけは、同じ中隊の先輩たちと、魚が餌に食いつき、その魚を釣り上げるまでの緊張感、また大物が喰いつき釣り上げた時の高揚感がたまらなくなり、釣りを始めるきっかけになりました。最近の狙い目はイカです。何が釣れるかというのは始めたばかりであまり詳しく

私の目標の自衛官

第一〇二特科直接支援隊

一士 齋藤 尊文

私は、自衛官になりました。一年間、教育隊の隊長、区隊長、助教のみ先輩方々に、いろいろな教育や指導を実施していただきました。みなさんどなたも、尊敬する方々です。しかし、私の目標とする自衛官は、定年退官しましたが父であります。子供の頃から、駐屯地などに定期的に父を見てもらったり、自衛官の父を見てもらったりははじめ、かっこいいなと思っていました。成長するにつれ、憧れに変わりました。私は自衛官になる事が出来ました。



ありませんが、先輩方の釣果を聞くこと、二、三kgオーバーのイカを釣り上げた。また、数も結構釣っている写真を見せてもらいました。私もイカ釣りに行ったときは、先輩方も釣果を報告しています。まだ、大物のイカを釣った事がないので、もっと釣れるように勉強したいと思えます。休日を活用し先輩たちとイカを釣りに行きたいと思えます。釣ったイカは自分で食べるのもいいですが、鮮度抜群のイカを産地直送で食卓にお届けするのも釣りの楽しさだと思います。これを期に釣りを始めてみてはいかがでしょうか？



四国旅行

湯布院駐屯地業務隊

二副 出利葉 政志

私は、平成二十七年三月の定期異動で湯布院駐屯地業務隊勤務となり、約一年半の単身赴任生活が終了しました。私の趣味は目的地を決めずに出かける旅行です。今まで単身赴任で妻や子供と接する時間もなく家族旅行に行く機会がなかなかありませんでした。過去に神戸、広島、秋等に行きましたが、今回は息子の希望によりフェリーで愛媛に渡り四国一周をしました。



カーナビに土砂崩れの道を誘導されたり、桂浜で大渋滞に巻き込まれたり、徳島で鴨門を見た洗濯機の渦ぐらひがっかりしたりとアクシデントの連続でしたが記憶に残る旅行となりました。久しぶりの旅行でしたが家族と一緒に過ごせる日々はとても充実しています。現在は官舎での生活をしていますが、妻の希望で別府に新居を考えています。湯布院勤務が終わりばまた単身生活ですが残り少ない一年ぐらひ、湯布院での勤務をしっかりと全うするとともに、これからも家族との時間を大切にしたいと思っています。

県内一周駅伝に参加して

第一二特科大隊本部管理中隊

士長 西山 周平

今年も昨年に引き続き、由布市の代表として県内一周駅伝に参加させて頂きました。去年は総合二三位という悔しい結果を終わってしまった一年間、練習を続けて今年大会に臨みました。また、個人的には区間を、一桁順位で走りきることが目標を掲げて走り、厳しい区間はあったのですが、他のチームの選手になんとか食らいつき目標にしていた一桁順位で走りきることができましたが、最終日の区間は疲労で完全に足が止まってしまうような走りが出ず、チームも初日から躍進していたのですが、途中から流れが崩れ、大会が終わってしまったら総合二三位と去年と同じ結果となり駅伝の厳しさを知り、とても悔しい思いをしました。来年は、今回の悔しさを晴らしたいのでもっと練習してチームを引っ張っていきましょう。また、由布市の三万人の市民を笑顔に出来るような結果を出せるようにこれからもチーム全員で切磋琢磨して頑張っていきたいと思っています。



二 列目写真中央黒のユニホーム「スタート」直前の西山士長

1月・2月生まれの我が家自慢

132特大1中



徳丸2番 次男
H28.2.18生まれ
名前: 尋希(ひろぎ)

由来: 希望の「き」を兄弟3人に入れたく、「ひろ」は奥さんの名前になれたらいいなと思った。日本でもらいたい。



朝田3番 次男
H28.2.23生まれ
名前: 展介(せいすけ)

由来: 「展」という字が「明るく、立派なさま」という意味が込められているので、明るく立派に育ってほしいという思いで名付けました。



中瀬2番 長女
H28.2.5生まれ
名前: 幸(しずく)

由来: どの川も一滴の雫から生まれるのでほしほしな河になってほしい。愛しくてもなかなかなる人気者になってほしい。



森 3番 長女
H28.1.22生まれ
名前: 結愛(ゆあ)

由来: 色々な愛を結んでいくように(愛のキュービット役?)子供に育ってほしい。思いでつけた。元氣な子供に。



宮平士長 長女
H28.2.6生まれ
名前: 琴葉(ことば)

由来: 「琴」の音色のように周りを響かす女の子に育ってほしい。「葉」は奥さんの名前の漢字を一文字入れたくてつけた。